

議論のポイント

- 気候情報・データのあり方、普及方策
 - 気候データ利用のための環境整備が重要
 - データは加工されることで情報となる
 - 気候情報はわかりやすさも重要
- 利用者インターフェース
 - 気候情報の利用者は多様
 - 気象だけでなく、利用分野における専門的知識が必要であり、関係機関の連携が重要
 - 情報提供者と利用者がチームを組んで情報を作成する事例や、提供者と利用者の中間組織が情報を作成する事例等がある
- 気候リスク管理
 - 個別テーマごとの対応が必要
 - 長期的な投資の意思決定にあたり、世界規模での気候を考慮することが重要
 - 短期と中長期に分けた検討が必要